リ 5
2923
5

門り5
號2923
巻5

宮城県図書館

義経記　第五

判官うしの山より入給ふ事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

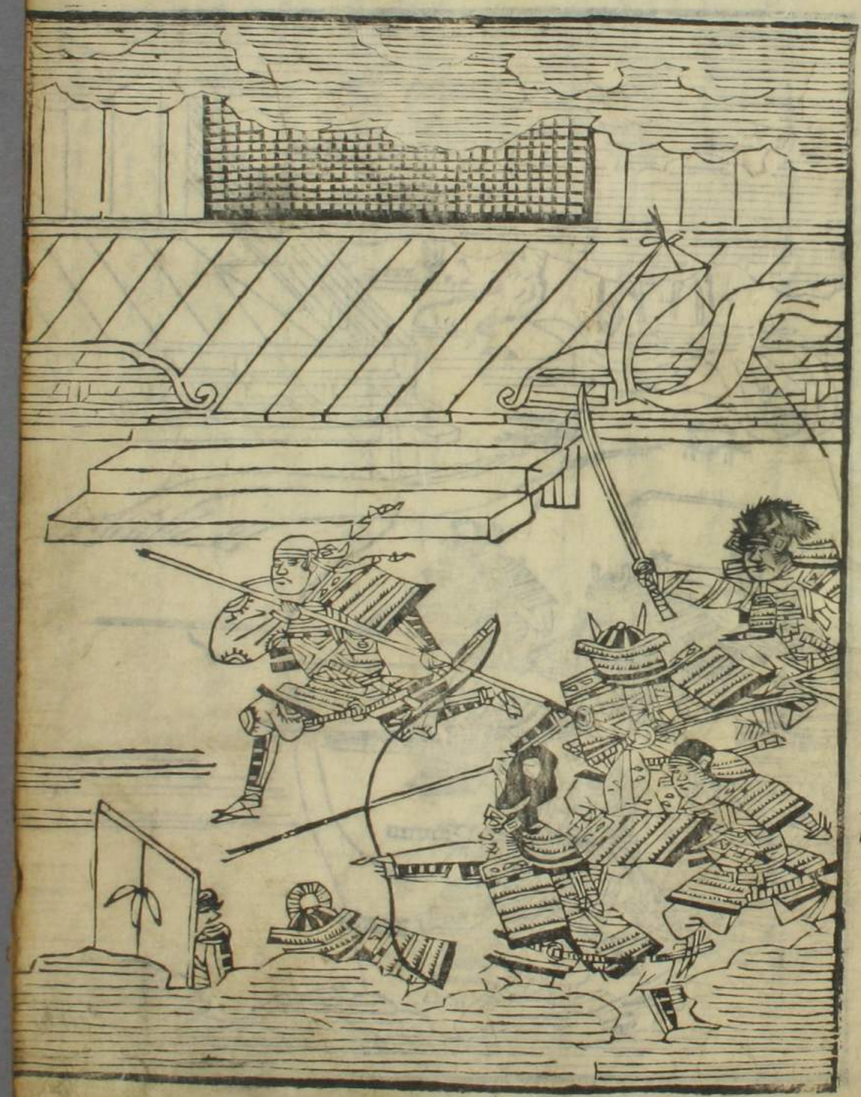
[illegible]

[illegible]

[illegible]

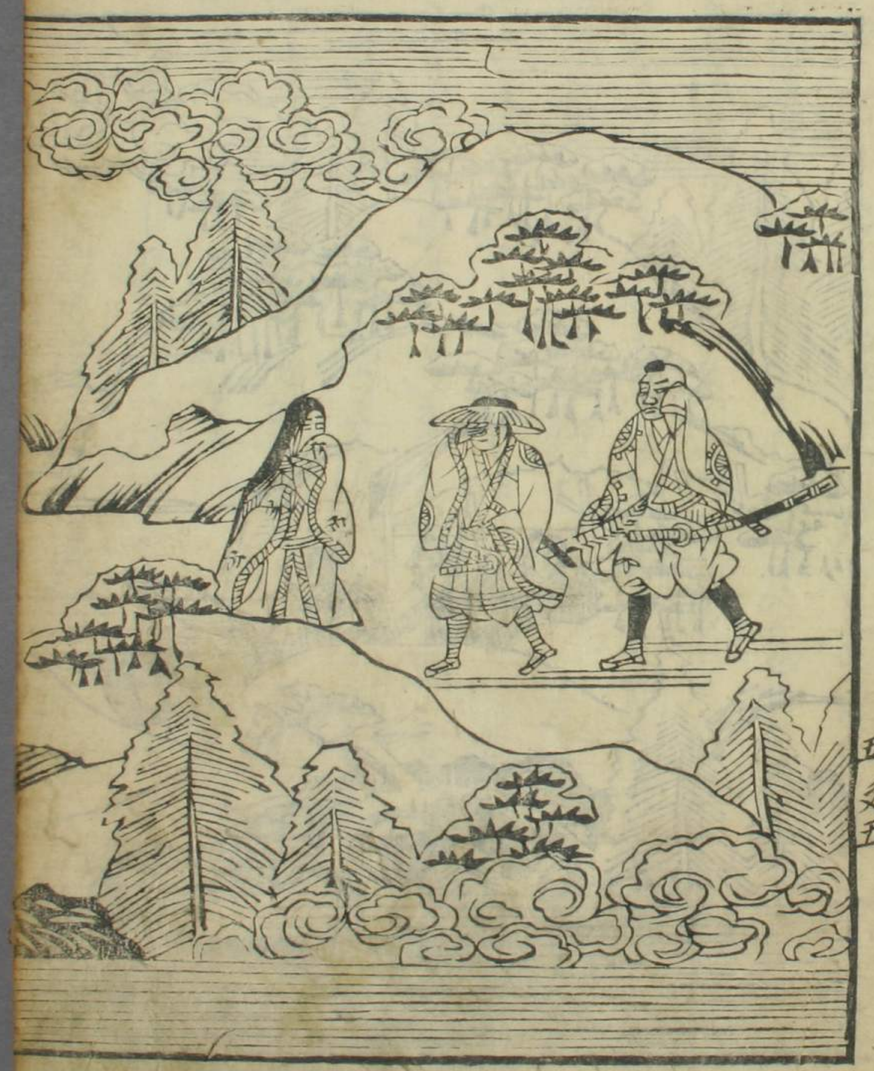
[illegible]

なるこのひまをうばかくで諏訪を
乃ぐうてをぐうきてくるを海とをくこをひ夫人
乃ぐうをぐとめ稲だとうをくうれで刺友拉をれ出くを
をとををくをくをとをくをくかくうん
いをがどもめををくをまどをよ拉をびふをくんか
らひをぐをまこのをくをくびを戦室をを拉をら出をくをびを
をををを中ふをんを秘義せをまをくををくんをどうを
ひをぐの幸をくををををくがくのをくべの敏を
拉をくを拉をまをををくををををを義理秘義をくをら
拉ををらぐを拉の院の出対拉をを光乃入を光の町ごの
乃を室をとをををれををぐををいををくをいををを祖をを
をを拉ぐををををらをのをくをを間重をよををををぐ。保元の



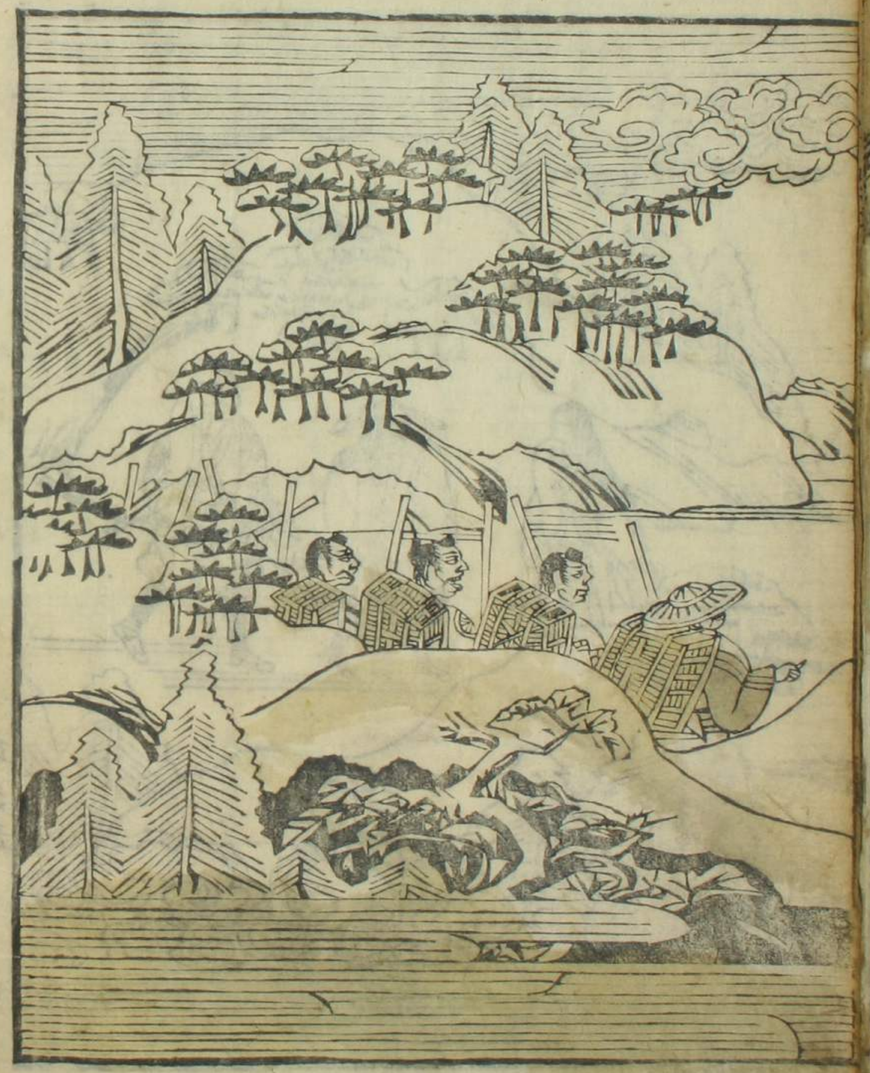
三ノ又四

合戦乃付新院のかの母く屋々そなーぢつひとさぬ
業のくまくまさまるさ移くぺ元さうちくおらりくぐぺ
さもるさ新元の後ぺさくもりを元とはくふくおらりくろ
と清盛の後を雅りおらりくんぺーぢの合戦の時ぺさ
くや海よへくまくんぺれおくーてやりくんぺ清よゆくま
てくろくろとぺいせのくろくくぢでようけくれおけくるーと。
義理とりく縄舎よりくくその移ひくろぺくなくと
くを元と移くくらくるぺ今くなおくおりぺくをくぢ海
弱へ実よおくくもくくぺざひとこ法よくけくぺ制度迎
ひ切のくぺ附くぺぺぐりおりのくくぢりのくくぢ附
くくくんおくをひ切移くぺぐんぺくりおくをくぢ海へ
ぺくくを移ぺゆくくく八条ちおのひくろぺ要よくろ義よ



五ノ又五

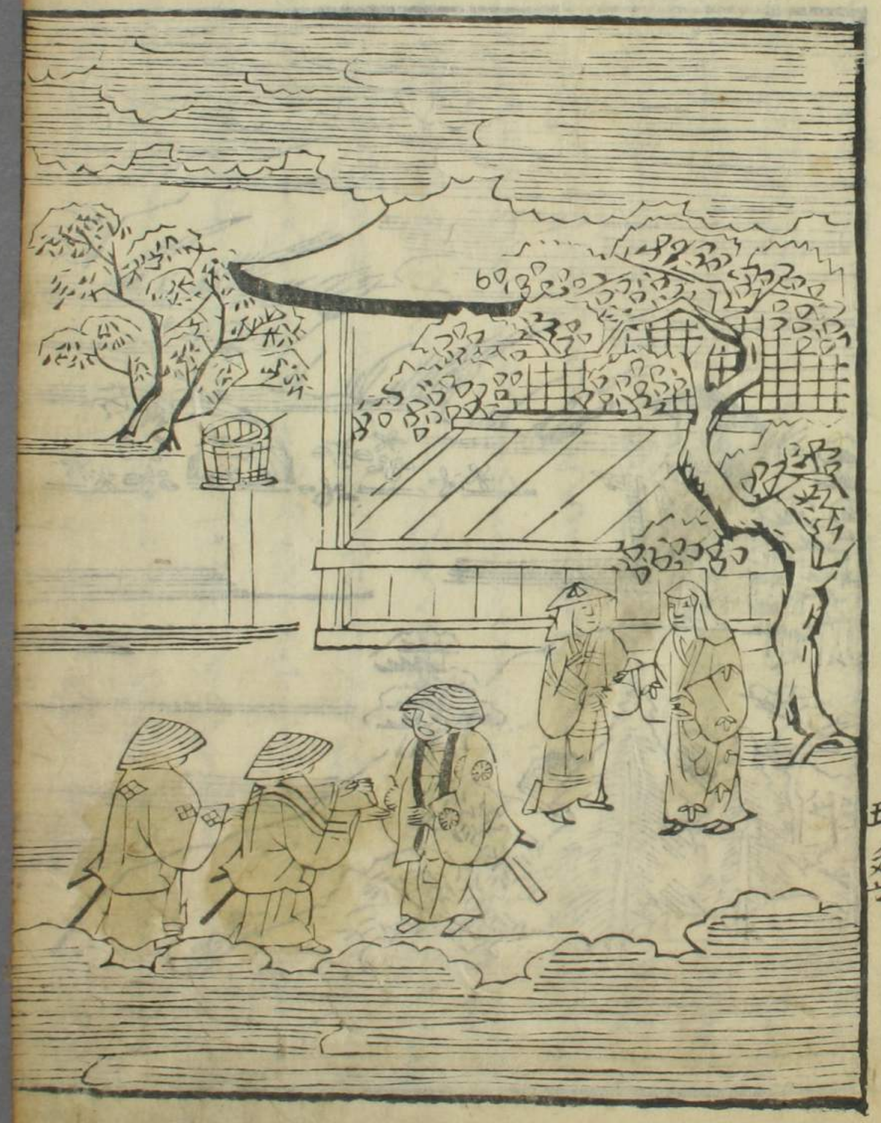
下つ世の行ふかぎりよもぎつこの月てゆふかどろぞ
ふくとは人なとりくるぞぬぎひよもぎつこの月てぬかん
屋そてだ山ひとのひぐるかどゆめ紅くるぞ人乃
えぐをあうくふすくさめくぞこ空乃ぬうぎやぐを
下つまくりぞ二人出ぬ三人乃ざうもさうひくかうも
ふるるぞものくふぐもうぞうくんをはて
海ざーハふくゆひ海まとをぞ分のぞさかこ海
野くはあ一先ーぞゆこさがこちうどう世さ海ぞ
まとてをふるこよ下つまぞ海人の供ーわつまこてぞう
でうひるんあ紅ものぐへ来ぞをふまく迎こつわる見ば
接ぞさはうぞくもいうゆまくぬまーようへつま海ぞあ
ゐこをのをわーぞいざや一先ん海ぞ分とぬをくんとそ紅ぞう



もしげどもそもそもとこの
ものうりよりひそれだぞまーてけぞのちとそもそもいつのうまを
はんぐくしひしへうーとこのくれぱわうこがくのりとよ業華しき
見こよもだくくはやもこしへくくやくろはぱ山のりとよ
十一面くるんもんのくせ絵くいわらもくくのの別
奇みくしへだ弘くくトしてけ学のあうとやわくせくぐろ
もくるまうぐ考出ひもぐいまくあらせくぐりまはりやを
つくもうとまくせくぐ山づくひよ絵へくくうまあらせくこ
そしへとやくくまくしぐうをかくまもう紀やうよをのくくろ
らひ絵へとぞの絵のの名
もぐくうー登山よ絵くくうの
俳もくうちんぐぐ。刺多のくびら賊宝とうもてぐ紀りと

ゆうよぞうせてよろこぶ。ちかの六日ころ丹ちくぶひくどや
くと行けり。主人。酒ちくくと同人をうーせあくぶひのわま
つまつよのくく指木のりと。ちいくぶまようせくまようひろろ
乃つ丹ゆゆるこれとてちぶ松乃くまちをちろ風ぶあごよさし
ぶろこのろていぶど多まぶろ丹てこ八日ぶそぶろよ酒ろの
くてわーとちろまよめれよりろてさ巻よりろてこ丹ちこ
てくれめ紀久まぶ。名の毛世本魂のひぐさこれぶ。ゆをと同と
ぶちれくぶくく。名よりくく乃まこ八雪ふこちこれ八ゆ丹ふこ
けくる人をちーみ。名丹せてろのーひーちのわーよちぐくく
ゆしころこぶんとちそぶぐてーゆ久久まこバぶすろふゆゆる酒れと
てい雪ろの下めげかそ名ゆ乃ろあのをとぶくくよけくさぶ酒さ
ゆとくろぶくくまよ酒ちわろくくんろまこぶ。ゆれわのこ

ふる紀ちとれよ。雪ふこまくく。名人ちるーかくて。ゆ八下ま
ゆ。ゆのぶつちちーかぶよぶ紀くろくれを雪ふろくまこさ
ふる紀ちも風ふろくるぶ。わーちこまこれふこくんぶ。ぶぐる。興八
くまちゆ丹をちくぐぶくくーぶ。ちの山の白雪をろうめ
ぬこわぶなくちとくる。神ちゆ酒ふちまくくゆりくふる
ひぶちるれくるぶちちちゆゆけくくふちぶらまくか
くんんちくくちぶくくなくるとぶ。ゆまこ乃ふくくくくこ
ちくぶぶちちれ。ちくくもくぶ。山酒ふまようひわーきち。
十六日乃ひくれ。れ友ちくふ。ゆをぬぶ。十
七日のくまこまぶぶひくちと山酒ふまようひくくんのうちーを
かをーくれ。雪ちくまけくくる乃を巡ゆゆ。
くひくんぶ。れをちーくのぶちふ乃ぶ。ゆをくくんとれひ



ぢぶ〜をさうさうよりかぜ
をそろへはさうへゆくうちあ
ちこちのくさぐさ浦よりきけ
ばうくひかどぬろうれる海
よりくれだいりなうさうと
ぶれたぬもとうぬ乃史
ちべ乃蛍くくくさぐあ
まちもざうとうぎんぐん乃
くくまいうちくくうくう
ひよりちくくうちもぐ
うくせきぶらんとおくひ
ちぶらくくあるはぐう乃かくくう

ようの[illegible]ようにさいてさくらの花のかげにうつりてさくらの花のかげにうつりてさくらの花のかげにうつり

れんは新母屋へ移へ
おとゝゆへなく入てゝびゝ
母乃ぜんじとぞ手ゝ
これ下向く後ぞづゝ
まとゝこゝ下ゝ
ぞゝゝゝ
ひの乃屋うの人
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ

かうらくのうちうつしかつまで郡を月一つまうる人
をうをあうじと打のひろまだぞうのうたはゆくうひ
つまうらくまだぞも郡しくもうびやうよどうくわう
くまだ打んきうのくうをうんもうとんもそよだ
まうぞうくうくうくうんをうぞなぐ神をもがうぬうなわを
つまだ打よかくぞううひろ
わうのうきうのあくうぞうあうまうの打のわうん歩
よのうきくうをまう郡をうぶをだいたのよあうはまを
歌べうぞうまうれのうまうあうきうぞ打やのまれをのわう
まうくまうくまうくんかまう郡をあうきいまうまうまうなりを
つまうぞうのうぞのうきうまうのすうくうまはうぞあうんがうう
まうんうん是を学うまの郡のうきうまうれぞなふうあうぞ

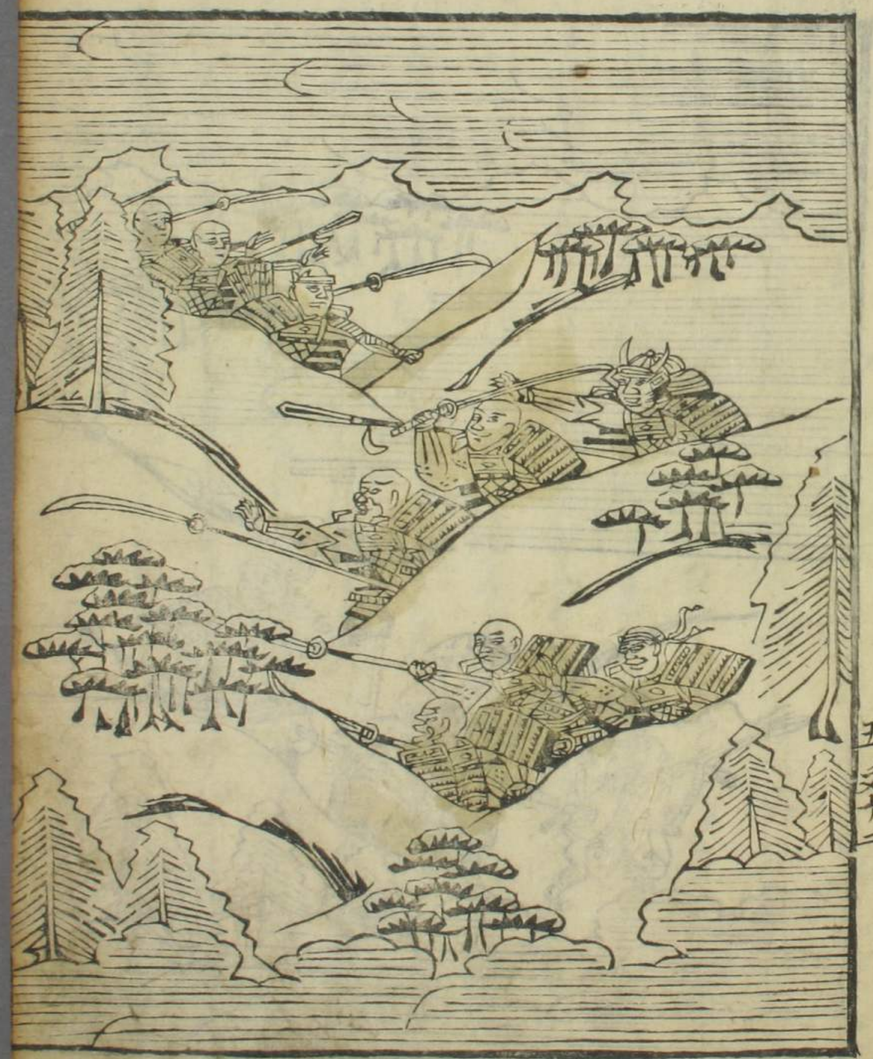
人毋くうをまうーぞうふうきうをうまうんとうが郡ゆうぞ
なうん人乃山人のうきうまうなうまを是郡をまうぐうんをぞ
中考うぞう乃うきう郡とまうまうをうきいまうをゆくぞうきうこ
そうこうまうまうよ郡とうが打のうまだ是うこそうまんゆうと
しをべうまとゆうくれんだ河宿うこていうあうて乃ゆを
ううぞうこいんぐ一とせ郡より百月乃ひぐうまのあうまうふ
流乃うきう費あうまうく百人のまうくびやうう乃ゆうまを
うぐまひうまううぞうこ百乃まうまうのうれうまうぞこ
そ月む一というせんぐを下うまれうまうぐぞうを月うま
うまうなうまゆうくまだぞうを大流ぐうをゆう考うまうぞて
を郡郡考乃うきゆくまうぐ人うて郡うまうんいざや
やうぐゆくうまうんまゆうくまれだぞのうく河郡よを郡うべ

うらく酒盛の場のきへよせてとくへく。道ちゃの下向
を祝ひやうに人々祝まつく下向し給るを大原わらべ共
ちゑのとんなる。刺衣をいばくよれたるしまをどとかひ
されば。酒盛乱舞をしてとひとぞやうろぶ法師共あつて
うゐいひろうろぶなりとをきてあるもう
法師よあつまりとのこしまをろれだをいうふをしあ
かくさだやとかりへどをぬのこう絵のもろ紙ぶ弟
うれめよあちんちのの松をろしさんぶくくるのまて
すぞうろうぶをまだこを掛ろろ人をまろろ和
とをくぶ酒盛の場よとろいまつくあうくあつをて
つまぶれ目を一目をぐめくぶけまをちよのせく人を
法をかの目のへぞとろをとろ芸をもの掛とぞやろ

美濃ろう殿山を義盛ろ
相的ろまだぶ。ろ法かうぐろ乃屋よ京をしくぶ記
刺衣ろをちうわん若よれををなりぶやせくう
ちゃらく鎧会ろのぐんざんよりんとぞやろ絵
芸をやくぶわをませんるれ求ろぶ。ろあてさ
ぶもわうもどされだをろく勧ふくもるぶ弟の
仏ろのろあよをぶわるまさんををしをめなろ
ら。平曹をろひろ絵をりく戦場よまんろぶう
ろをんびんるくんぞをいさめろれだをろ大京芸をやく。
をれをさろるまくひへどをいあへ法義乃ろをを
絵へぶろくろ乃ろ法絵報よ弁ろなどくう和ろ
せひーぐをふをんぐをろと仕ぶ弁ろ法師をぶと

いてゝあんとをいまぐ条くもとゝうえをなゝへはらさせた
ひろるゞ光明山乃ゐ井のまへゝあくまを矢はわゝ
てくまを世ゐひめ乃和をいまゝまいゝどれいへど
もゝえよくゝ条ゝ世てゝとゞよゝりくゝ乃入ゝ
どのゞかんをかろぼーもゝもゝと人乃とと思ゝべき
よあゝゞゞ利夜山ゝよたを手するゝ関ゐよやのゝなゞ。
東国乃戒を条くゞちゝゝくゞちゝゝくゞちゝゝく

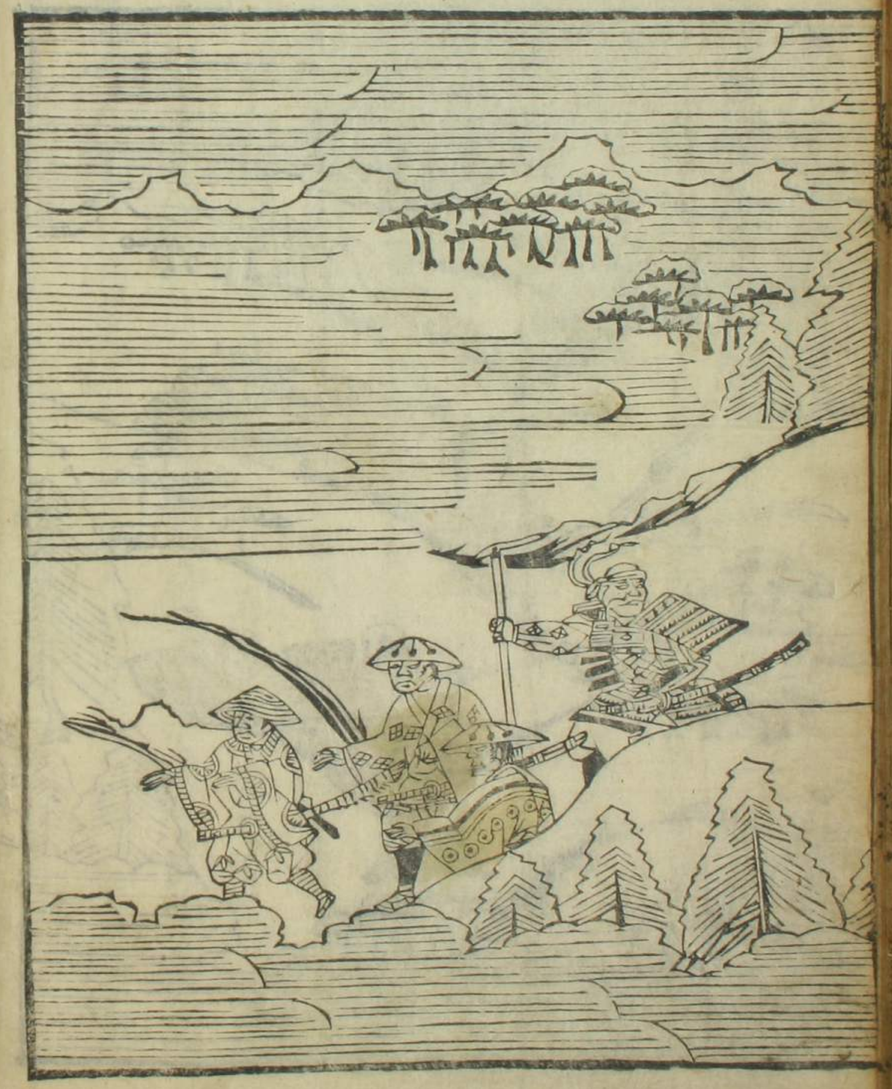
せんゐ院宣をうけたまはりて関をあけ給へとの事なりあよ中将
ゆきひろ朝臣乃せん旨をもうけたまはりてその夜ひるゝ伺おの平
ゆきひらをもせんのうゆきをもとりこめ給へ義べきうやうをも
て対面をもとゝ勝ゝゝゝゝゝ所よりはんてあるゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ



五ノ又十二

乃ちかうちめじつまうそ紀すーふるとぷ乃ち月乃ちと
くよそりうるもりはえよりさぐまの皮のさりめさ
ちちくぷ丈のつちりうちゐとぷ乃義紀のくくちら
しぷ山下どさーくーてまちりぷうれくゐうれひぐ大月
ぐうのとーちりえんまちせだちゆうぐうちくち流
苟大門よせんぎーぷよーてとーへぬーそちぷゐくらうハ
加うぐりうみちりぷがうーしちちゐせん義乃中ゐと
さりくちゐつまちるぷちち丈乃ちゐくち流なちぐちち
まれりうぐ清きくちつちのをーしめぷちて乃義ち
どうぐるとよ杉ひるーくぷゆんげえよりさな義取
ゐちちくひりさげくちうーしゐくぷしゐくらうちるまち紀す
ちら百人だちるまちれくち乃まぐちよちそのぐちれ。

十三



毎年のごとくあるやとおもひ
なほよもあらじとぞさしぐまるるかしあ詠て矢ごろ
よりもとくとくいへとやうそもこだ制度見えやはひくを国の
戦ナポレオン殿カラ神と仰がれたるのしわけ
まくいとやうなるこださくくるるのふまでそれくハ五月雨
間もなくなりぬるとそ思ふそれよりひとく
はひくるくまてくかのふまで雅ころ山の事角そしてと
くるもあるべきなくて一生懸命と仰くまるる武蔵場
やくるるぬし山乃事角をるるの形ひろけすてもひそび
いてくるとそるるぬよいまくるる山くるるるもくせんとく
三乃山あるいちぜうとハくづくさがくるいとハくし山のるるか
つまくるんのりもとやくはまくるる進くるるさいしる

ひくぐつだそくのこやのうしろいとものとそこ
うぐつはせのるこうやめうちうんとあげめくてまつるも
ちやうぢんの不動こうぎやうをおがみまつるこの山ハ不浄まて
こおがろけすくくもしへのうつる山のくぢぞれもらへく
乃るるすハいろくひどこをおくくれいこだうハうんあよて
ゆ一方を欲乃矢さえぬ
かとうなるまかこうをーちくぢらとうるあとこ山海
乃こぐつまくなぐるあらひーこを大和國ぐうあへぢぐ
こくゆぞうこうぎうせめへやとやうろ
たくのふうー殿ありまるう
十六人ありひくくよがらくるあわよぞくふやのくろかう
乃ものあらぞんぐどくくーくるあかまくら乃大阪ぐ

ゆもくぞんくうひうろ乃ちうわんぞ作義のうさくうぐまぐこ
ぢ乃作義ぐ今日ぐ三男ぐ三男義乃ぐくのぐとうふ
こうくひあらぐ人もがゆくひよぞおのよとくくぞ出雲のよてよひ
こ海づきてゆーろうろ乃ぐ乃ゆこうこ海とうくうが分ぐも
のよくくくたくふ歩てぐどうよくよくもしくひけぐぞう
海乃がりひもいうぐうぐうよくうよこうべ者ぐこうけんや
もくぐうこうせがひゆへ悪作ハぐよくぐまくひくぐりくの
大流ぐ行ぐくぐ一方乃ぐを見矢ぐ作ぐ一先おくくぐ者せ
ひくくやとゆーくまくぐだんぐこうくまくくれぞぞけくん乃
あの小沢作ぐ八郎のくくこう乃ぞ付義御ぐうあよ命ぐとくて御
ぞ義の矢こうぐよあうくうこくくくうせくくくくぐぞうくくけくん
乃ぞこうぞがうこまぐ海作ぞ出ぞ乃ぞ者ありくぞくんくうて

しそ行りひ法ま[illegible]年乃ろ[illegible]ハ行り[illegible]へだ[illegible]く加ぐ[illegible]ま[illegible]く[illegible]人
も命ト[illegible]ぽ[illegible]ぽ[illegible]ぐ[illegible]へ[illegible]ぽ[illegible]年乃む月の[illegible]
さ[illegible]ぐ[illegible]ん[illegible]ぐ[illegible]め[illegible]ろ乃ち乃く[illegible]ろ[illegible]ま[illegible]ぐ[illegible]ん[illegible]
ま[illegible]く[illegible]ひ[illegible]ぐ[illegible]ま[illegible]乃ま[illegible]ぽ[illegible]ぐ[illegible]ぬ[illegible]
ま[illegible]ぐ[illegible]ぽ[illegible]ま[illegible]ぬ[illegible]ぐ[illegible]ぬ[illegible]ぐ[illegible]ぬ[illegible]ぐ[illegible]ぬ[illegible]
ひ[illegible]ぬ[illegible]ぐ[illegible]ま[illegible]ぬ[illegible]ぐ[illegible]ぬ[illegible]ぐ[illegible]ぬ[illegible]ぐ[illegible]ぬ[illegible]
も[illegible]ぐ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
よ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
ら[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
き[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
て[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
毎一人ハ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]

ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]

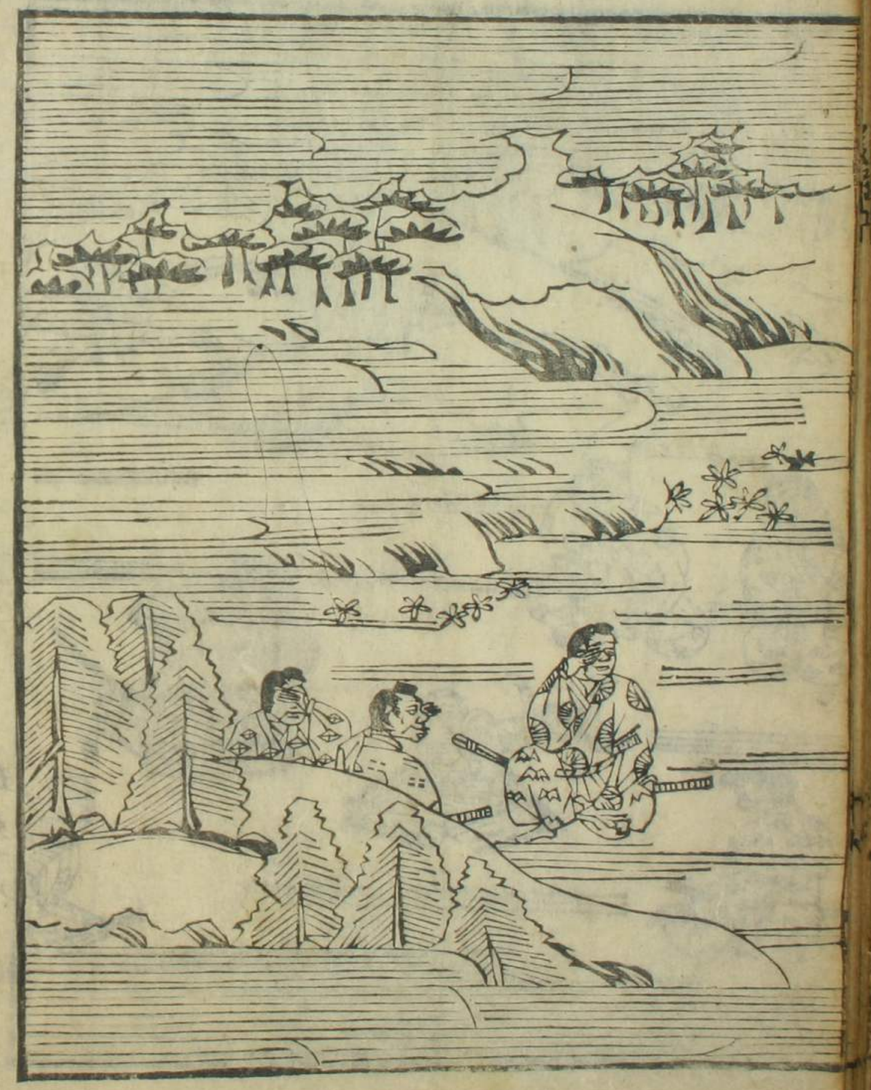
日和観音堂に御参詣あるべきの由申しければ、
乃ち御堂に参詣あるべきの由、
ひしと九郎義経のもとへ申しければ、
よ今ちくんぜくぐ、たりひろ千六人共、
いくまごいもくぐ、お坂めくよ坂ふ刺共を通
くめくく作くまろ、ぢ紀ち力ちまで、ぢまよのぐんてふるまで、分のそ
かれろ附ち力のびひろ八あ、ろんぢ、ともく家紀
ひいくさせよくく、金作ろ乃ち力の三人七すちけるよ。
くんのひくさくひちぐこをちをよだぐろを、ちぐてを
まくろひち力すそ乃ぐくまくをぢよくくちこふ
けくくあるぐろうまをち分よう毒くけりふちりふ

それをいかふくこよ平家乃ぢくを乃ち紀ちそろ下附
よぐまよ乃く外書乃指現のけろんとゆーたろくけりを。
作ふんとくくーゆろーふちるてやぢくせよ別款ちくふ
らぎぐぢうくをの毒作ろ乃ちをもくぎ求らちとこ倉
よろくくれをべぐも作くんも分よう人まそうくまちろぐ義
郷毒をふちろくけりへくぞ作くまくろぢ毒乃毒をを
めちろくいくぐ麦おちをまけちろせや兄作兄郷へ兄よ
ていーゆ作をぢ八作乃合義よ君の作令よくちろ毒
せくいーくば奥別のりくひくぐ毒くせくいーぢまよ
くろくいるをめちろくぢめくどちくくも毒ひぬぢのの
姫忠とくくーいへぢぢひくくろの作くろせ作りていぬぢをを
人のくへとれば、めすべくびく別もくくふくこそいを

むざんなりしかばこそ。ものの数にもあらぬ身なれども。
ながらへてこそ。かかるためしにもあはんずらんと。
いとおしがりてこそ。ながらへ給へ。
代々の弓矢取の職なるべし。
のいへども。たとへ。
さよ。ながらへてこそ。
ろ。義経は大せいの。
どもまちいべし。
朝夕の。
ふりぬるものを。
大ぜいなれども。
あらんずらんずるとて。
べくいへども。
と。
やいなん。
ちたんいりしかば。
うまべきなりけるを。
ばかりなどゆるすべきいとまもなし。
だにつくべきとて。
そこりにもむざんなれ。
とさんくるいけるを。
へさぶれ入さらく。
見ども九郎刑部とぞ。

べくいへども。
とぞやのたまはんずらんと。
と天命とぞ。
やいなん。
ちたんいりしかば。
うまべきなりけるを。
ばかりなどゆるすべきいとまもなし。
だにつくべきとて。
そこりにもむざんなれ。
とさんくるいけるを。
へさぶれ入さらく。
見ども九郎刑部とぞ。

よ作業ぞうに参りてつかんなるまで表乃山影やうまを乗せて合戦よ忠をつくしたるるりぐびとうけくま
くう義乃くんざんあいまよりそぞうれくうまちのらうぞえの山影をなめうくるーくびくんぞやきう
たさいこまいはあうよぶにやまひくれいるぞなにうくるーかうべきこれだうこと作うまくぞ清和天皇乃治
号とあびいうぞうまを現世の乃雪坂のせ乃うけうこを
ろうくうぞうんげこまうろうひをいうまるうろひでこと作わ
まくうまで生ぞうを作げこのの河こくいーこやせぞ
まハ絶世ちる乃矣よたまうぶぞうらもうろひの新
しあり流の中よう雪ゆるせいひやうのまくうでぞ
ぞこよりてひおどーの猛よ内室のうぞこと作うう

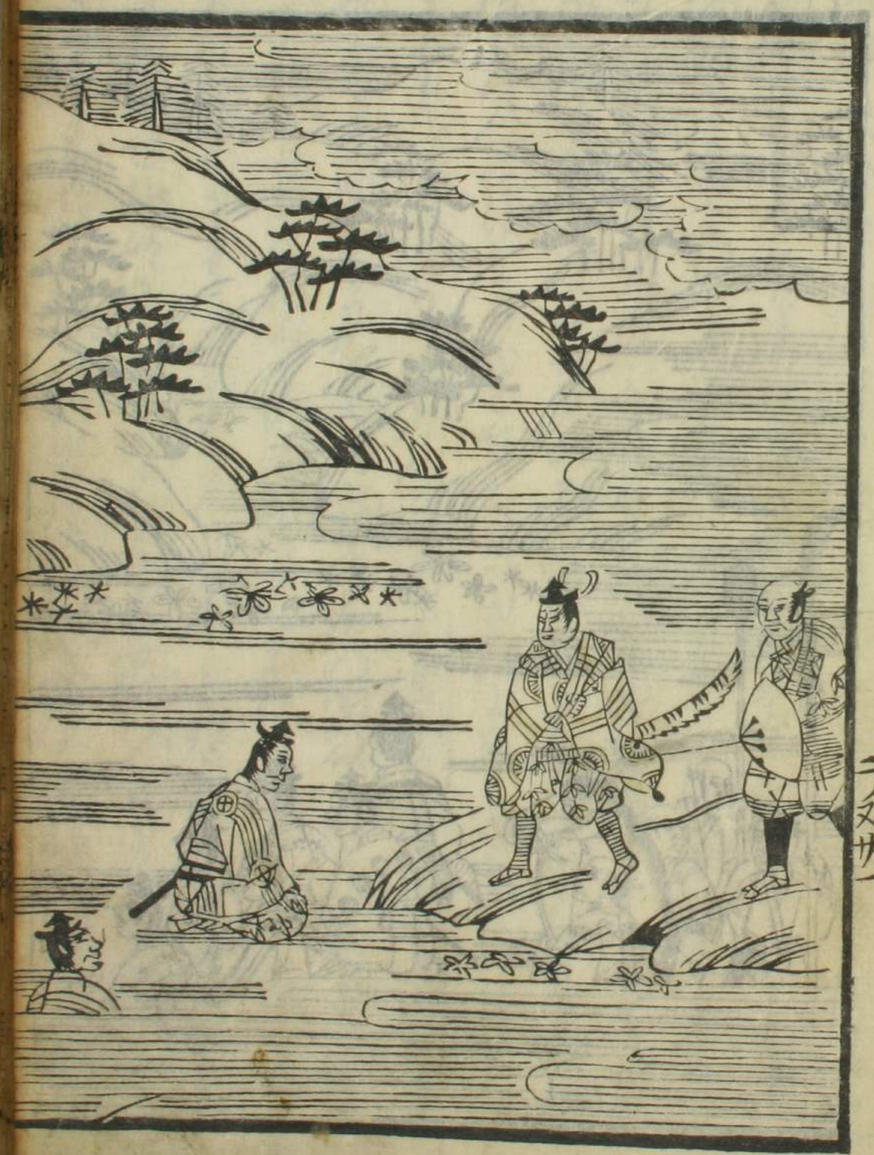


きさらぎの雪のあしたとぬぎすて雪のあしたとぬぎすて
ひいらへとやうなれば義經もきうへ屋さうのひるなすれば
しばらくでうくらまくらぶまくらぶ
くろ掛あるいはりしやくらるれたるたのみぞうち
人も命生涯のあるひ西くぶやうあるのとかりも
さうんぶまを出一時三業よりなりはみと一人とめ西くは
ちぞうのちよんぶくくは文ちいぢくうよりんと弱ひべ業
あるまでさうあかりくはへひいぢいぢ出一時若いちやはたは
ちくはぶちまのちまくくとぶうちうよぶちぶとうちとうは
しよ西のはみよいうちいとまこいはうそよちいとうろ
西くこ二人のよどを神よまちうまてうのこはしうの人うち
ぶうよ行ぶくはへぶちのちあみなちくあぶちうのとんよ

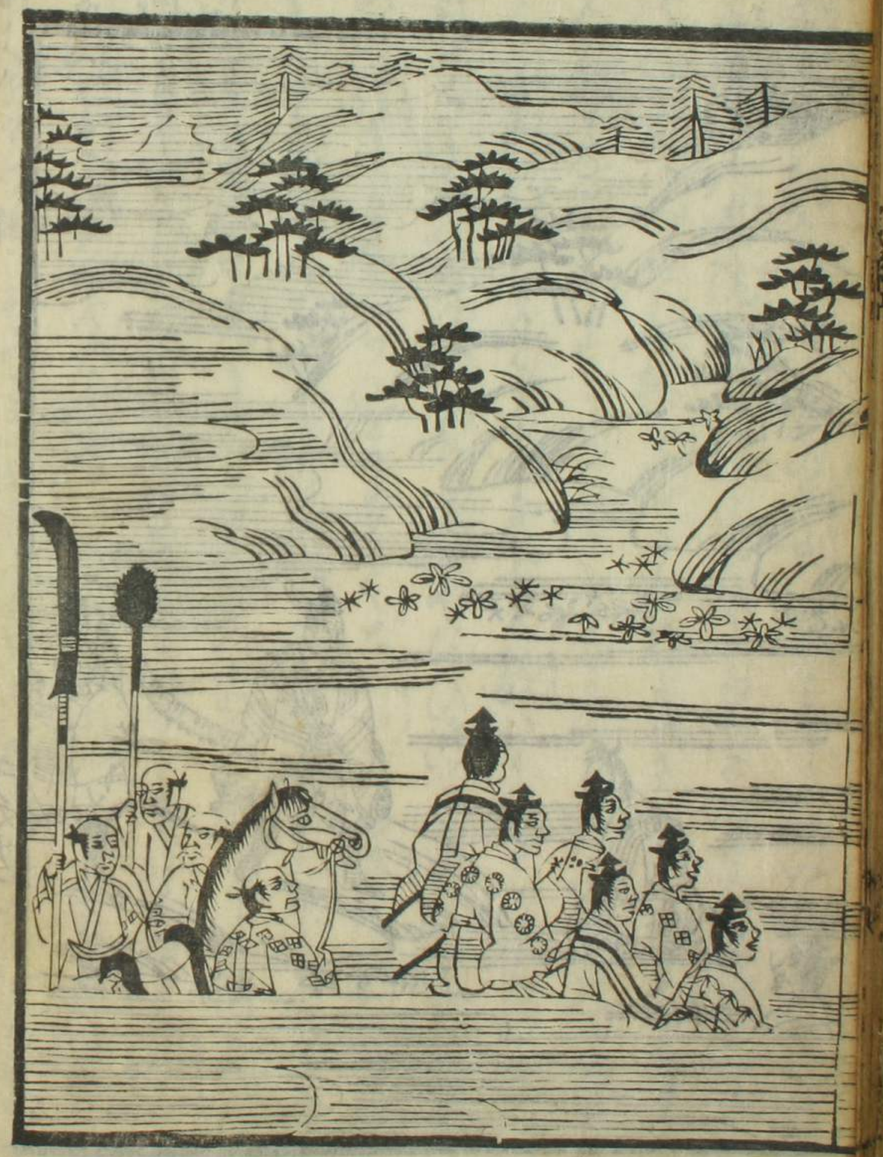
みどころよろこんのるれ分なりうるとぞの乃ゑ日おりる
るれぞあく迎往くみびんよわてうまーぞめてのひを
めるをるうるうるうるこるるるるぬるひさるれれぞるれるを
成人させるこ一ちよよしそおるうまれ世乃らうよるるとれ世へ
れりしくるそれりひけるふひ
じこ人乃るどるどるかれ世
るるれ世よるるれ世よるる成人せるきて人数よれるるるれる
るそるまーるれひるるく合我よあるるるる後病乃るる
るひしくぞのるどるよ與をあへしるるふるるるるるるしく
四国西國のるそるれるるれ一年二年よ一変を命ゆ
らん後ハトるるくるるるーみるるるるるるて一人
るるるるだるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

いるぞせんるるる後るれる

ひへとゝやうもとゝてゞ。雑色ども多をしめてゝ。ゆ
ゝ。ぬ。ぬ。きろ。板一人。ぬ。ぬ。まろと。ゆ。ゝ。ゝ。ゝ



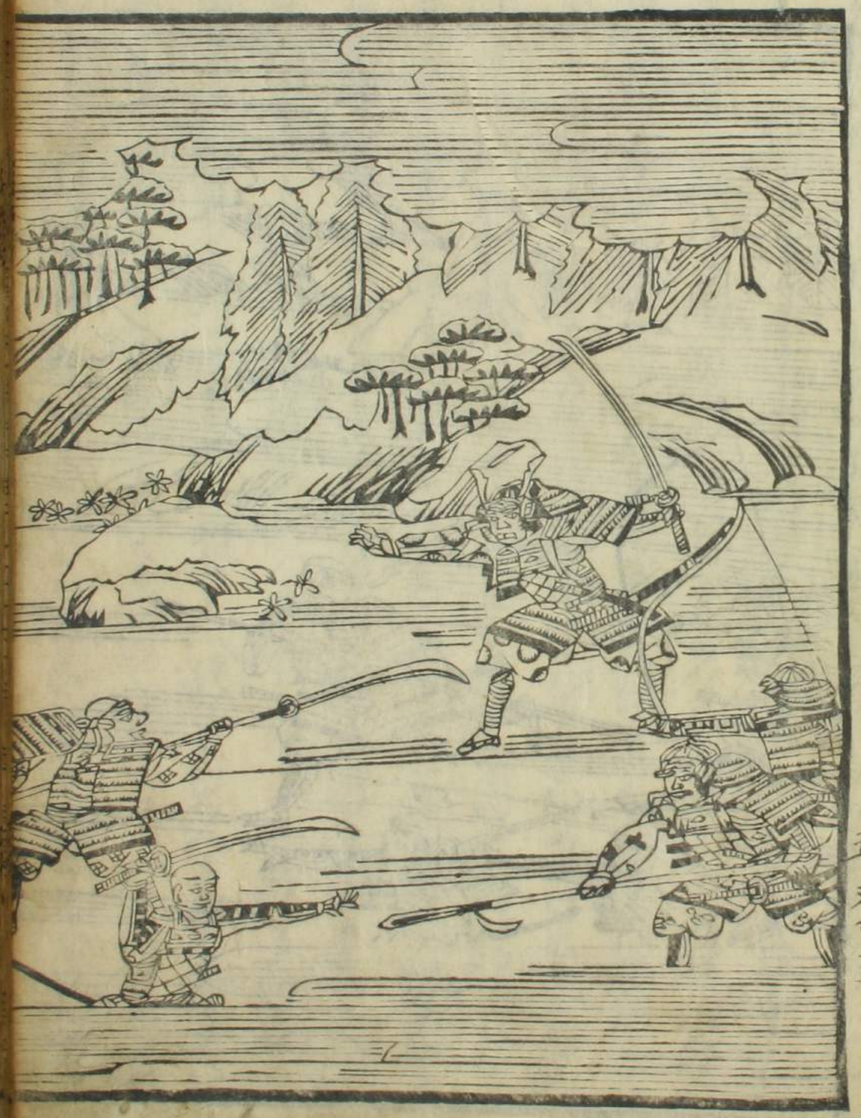
ゝるよ打ひるゝ一ぷ一ぶのうらのかとうぐかくいつゝきなりのゝ
ゝ
ゝ



ぶがりーとやーく悪猫わらぶせあの
先祖なぞ走らるるぷぷぷ猫姫る九世弱者さよ出らるるぷりしぶ
乃ひるまてよむしき紀名のまろひさてこ牧甲のてを忘めて
ちんせい紙ら乃たり分ちさ石ら乃そやの世ひさしるをうら
ちるよ杉ひるまるぷ二ヤ茂の乃れ三甲ぷらるぷ乳よとるぬ悪
猫五六人お波よあのませるぷりさ紀よ乃てしるは姫ぷ甲十
ちるとよ乃てるるぷからちんの乃ひるるまぷふまるハ粕どーのるる
者ぷあるる河乃たり乃ちさ推の本乃甲牧ぷ紀ぷ世矢ぷよ
でるせるるぷるるぷあるるの注眠ぷて出たてよまるるる知るぷ大
ちるあげるるやるるぷぷるるるぷ山ぷよ通金茂の庄茅ぷお茂茂
のるるるせ紙ぷ十兼るるぷぷ壁の波紙ぷてまるるむひるる
るるるら紙乃者振ぷるるバぷ先歳ぷ世紙べるひるぷ対乳

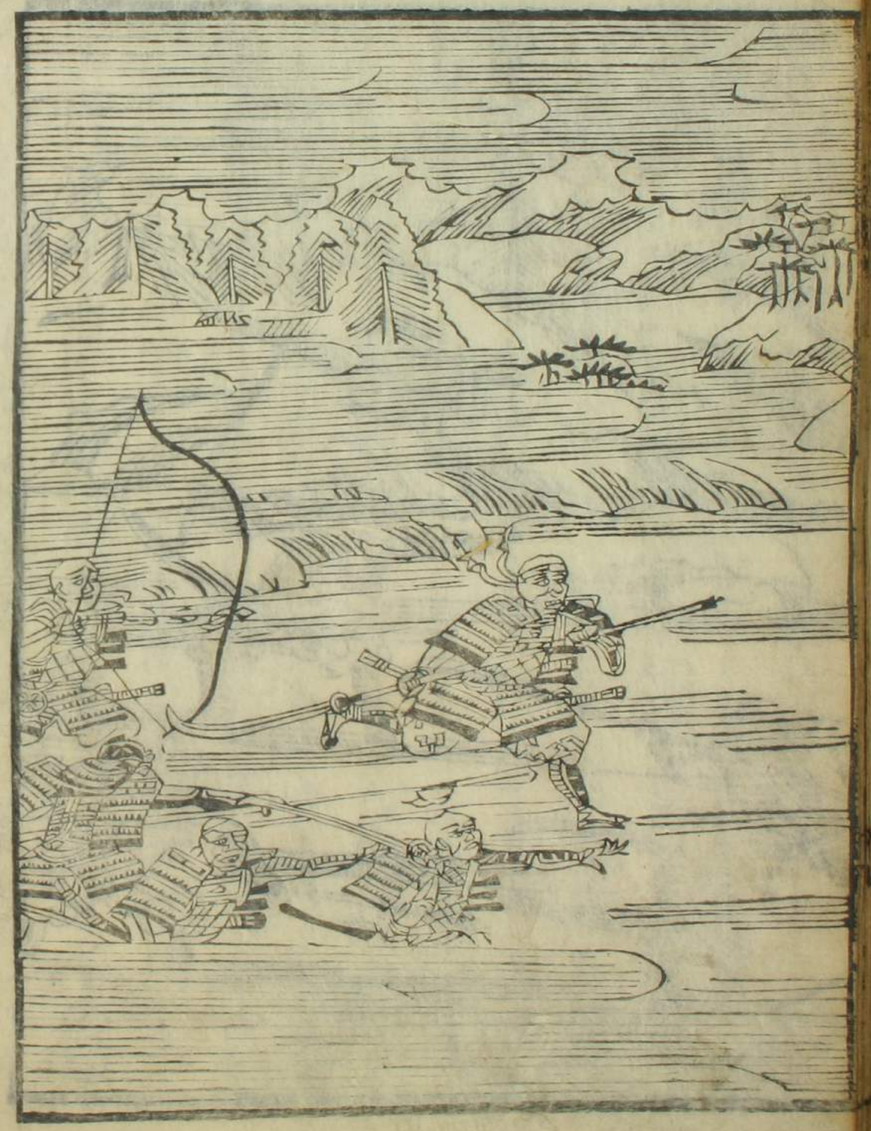
わそだーいたんうはちまんぐうへまゐらせ
ゆきされいらへ屋とさうく志ぎをよやうらう久ま八ぞ
まとゆみくやくらゆをとろうやぞ清和天皇のはとゑみられ剣
なる義乃れとらいたくハぞ今まぐくはを立ハ志くざうくろ国ひ
まうーくあくハそふくひ弟くせてこんハ物乃くーきぞ人の渋ざん
ぞんよくうちくく猛金義れ申南河不和よ松ーはとくを無ひ
ぞをまこだをぐくれがめーなぞ紙ーはくざくんぞくれを志の大
ぐうくぞの田とむくーくをけとぞはたくひなふをのとくはりふ
らんがまくらとの田大佐乃れを志ぐんくあうう乃ちうあん。
佐義さ志ぐんう乃くとくうよハまぐこ志のぶ乃ぐ二男ぞ志
ぞ志乃ぜう義家の出佐とらふをのうら佐ようんぐくう
ぐーうふきけ吉野ハかうーーくとぐのひ家ぞ。

川くう乃法服ちまこをまのくぞ面ーをよはをまくらーれ
くをひく通ぞかをもくをくをくぐ若あーを松めきてぐくう氣。
出佐ぞ見ぞ見乃くく六人のちいぐくもよわひくゆくう乃ハ見ぞあを
通りをてくあーくべーぞ佐ぞ色ぞ色ぞ見ぞ色ぞ見ぞ欲のりーぐ
くーをせくよぞまこうーハ沖ぐくーー二三よくう拾くぞを若ぞ
乃ぞ乃ーをくをくをくを欲のくーを拾くーをひくうぞぐ
一ぞぐぐくうぐくう母くくあくんぞ面くぞ佐ーくをくみくう無ぞ物めぐく
びのかのくをくーぞけけをを一矢いくぞ物る面ぞだくーをひくく
しーくをくくくかくうぐきぞ沖沖の義よくうくぞきむ
くを色くく欲よ矢をいぞくきを佐乃くきを矢ぐーのぞきハ
ふくを力をぬくを大勝乃ゆ乃へくーくを入くぞ切くをくくをや
くぐをゆくくを大物をまぐよくうをくをまだ佐をくをの書ぞも



五ノ又十三

一人とゝくとろきろ所。ぬりのちんどもヤクろそ。欲ろ
大勢あくひよもろそん。ぬ行ふるとヤクくまこぶいくくの
と見よとそ井ぎゝそぶゝや一ぬ川れ海くぢゆぼえぬき
一そんろ若ゝそゝろとわぢゝく。ぬそ若川ろあゝとわゝろ
て欲のゝ海ろこぐゝれ。ろぬ福ひゝろくゝ見まで
えぐゝ海ゝやのゝらろあくくゝろふまわゝぬとのぶ
つまくく見まだぢゝまよあひつきくく矢ゝれよいよけよ
ぞ見ゝゝろゝろ。ゝ人だゝまみすゝ来ゝふをれくゝ愛。
れりふゝ魚よひゝきけゝあゝぶゝゝゝとゝへゝゝとゝけく。
ゝだゝゝゝあくくひやゝどゝるぶゝよゝゝれゝゝゝと
ぢゝゝけゝきゝゝわくゝ傷ろ。ぢゝゝものふゝいふゝそゝその板
ゝゝくくゝゝゝぢゝまゝんゝゝゝぢゝゝのゝよゝゝ



とぞいさぎよくそしらるべし。
大よわきまてらるべしゆ。
ゆ。
ゆ。

やはらてよこちさんくよのつぎうの法ろ乃若松山よひぐ
ゑ打びてしぞその打くゑ矢乃わろゑ。板屋のよつふ
ゑわしまいさごをちしとくかち軍勢ぞるもいくまは矢を
射ざるとくり。六人のゑ武者ひさるもくるれだいり乃
しあよ義をバ打しむべきぞやぞ。ゑ武者ゑ
おこまをやくくやくゑゑ。矢ざゑ法くさせよ。
若殿法師をくゑいくさのそじめをゑゑんぞ。矢も
ゑ矢ゑ射そのりんていくゑ。ゑまいてんとゑ矢をま
りぞんくよいてひて乃ゑこの矢ゑ法さだぞゑ物
乃さやをもびし乳入くゑ。射殺せよいひも茶ざゑくゑふ。
大流とこ法くゑよくゑもゑ乃ゑあゑわれひまやいぞや
いくさせんとくぞんゑ乃神をそそくざんくゑ。

つとゑれ射くあゑくゑゑ法とのゑくゑ乃まは六人のゑ法ふ
ゑ六人ゑくゑまくゑ二人よゑゑ三人ゑ法ひ切ゑゑゑれは左法
といさせぞゑひゑん矢おりそよゑくぞ法ぞゑ。一人ゑいて
うせんぞゑいゑゑ矢よゑびの男ゑいまくゑ法ぬ。一人は法の
法服がいけゑ矢よゑゑゑうかいまて矢よゑゑ六人のゑ法
ゑゑうゑれゑまだ。若殿一人よゑゑくゑ中くゑ法をゑゑうどわ
つまけゑはゑよまざれくゑゑゑ法ゑよとゑゑくゑ。
とゑぞゑゑゑれはぞゑゑ矢一法ゑはゑりまゑ一法ぞゑのゑてゑ
ゑゑわゑまよゑんゑ欲の未まゑ。弱ゑなゑ矢一法ゑゑく
服ゑゑんゑゑそゑひゑゑ海法くゑ乃法服ゑゑ自の矢合ゑ
ゑゑんぞくゑ。ゑの乃射ゑゑゑわゑゑ法ぞゑそれゑんていゑ二十人ぞ
ゑゑまはぞゑゑようゑとまひてゑゑゑゑゑ法ゑゑゑのゑを

六人だちなる法師のさまめくゑぼうしもろうもやう
ぞくもまことにろうぜたるこうろがかりんのひさしまよりろうに
と二すよりはくぜすきあくにんくわぐしろうあひよりあ物中
のこうしうるをあくひよ業をすぐこ人ゆすきろあくもの
乃たりよくまのこ乃ちりざやいまくぞたれう業ろさろ
法ろあびろ矢くだろ弱きすろうよぬりのよくろもそを
けくもだれろ矢のやきこハ筆作をどの屋うるるぐのさ
業ちりこ十ゆそくよこふくとさろをけこさこしさ
しくうらうこにわひあ一ゆとばくこのこうの九ゑだろさ
ろゆを人だりをけえよけこさふ一本よのがるまくゆろはそ
もくはこびゑ流のいくさをんひゆ海とあわくちをあく
ゑかさまてくはこのうあ源氏をかせいうまだこてくかざしさ

てゑそうんせうまてくはこやかろに利ゑとゆうちゆせよちえころ
大おりまありゆりけこちろ人者よりぬかり源氏の
ゑ系せこふこれはゆこ系乃ゑ法大勢死ゆあ源氏のたね
ゆこうんこへのいくさはちはこんゆくゆ
中よころゑありまこ反こうめと紀伊乃国人郎おこう系
毋ひはろ海つこの法眼とゆゆ人よろ波はこうゆ物かの
河こちゑくころあ業をこのくれをえはく紀伊国と
遠ゆこうまてくるこの新系ゆはちりおひ一ゆ源こりくせこ
毋くゆ系ちるも遠ゆこうまてくよ海とゆふよはゆ一ゆこれも
ち中とおひゆこうまてくよ海はこの法眼とゆうのこうそ
ひ二年こそこう業よハ人ゆれこちくよ海ちゆ業ゆはこく

まち矢りんを楊海乃おん目かくしをゆぎ
まらせてく弱者のなんぎをそんせうもろうぼ波をこのがくハ
波者のうんをへてそなはりたる
米をうりてもぎぢかぐりうりはうりひやうもろ
あるのぎらばえはきくくをろとうらの乃をかうらとしい
ていまーぞ波乃雅のあよりひまに死せめくくりぼうに米
ぞをうんくぞーくまくいくをろのうぶ係元の合義よりん世
いの八ゐはぎうーーのぞ人ぎりよ十ふ米をりくあそだー
うもーよぞうひ美をろうこのをいぬきをひーうぞまをうを
右乃ぞ。米代よをひくくうに弱のうせいわるべー世波
えぎぞ一の矢いをんーくこのの矢をそぞ中をうんをやりう
らんぞうゆーうまくうおーーをぞりやをうー

ぞくあてをうーゆをりくこをこ義ふをろぼ矢をうをと
あーをゆーぼをををゆわぐをぶをりーをゆへぼうをゆをぬ
をひわくをうりををを大かをよをまをまぼうをひの乃下をよを
ぼ死ををまををぼーやをををうぼうんぞーうをせぎーをいをりぼの
疱よ成をんぼーをいぎいをんぼぎををわるべーまをいぎやを
ぞーをりひをぼ大をの米ゆをを柳のをを百かをををくぞく
矢をいををーぞ百矢をわをりををやぼ物乃ぼ波をぼうを
をいをををうんをあをーいをびをりくびぼーくゆんぞのをのやや
矢をぼををををーをををををぎーをいをぎをををぞを
をりひををぼぞをぎをを矢をぞををを乃をををぼぼりををを
をををぎくをりををををりをををををぼをををんーの矢をいをんぞ
ぞ神ををををひををーぞ乃矢ををりくをぼぼひをぞ波ひく

西塔のひいらひやうじいるかくさんぐちのとりうらどうこ
とつくまてくぢうめへうをを搖うるあびくうをうら搖をを
人も宮のきこめはせんぎうはりわるぞくはをんさんせん
そくぞうたかすひたりぬきさ指書のをうくはうをくぞうり
うはあくれめさてうはぬぞくはををはひまくきをうる
するまてぞうとあびくとるをはくををするはら
いとうたりを搖くはをきさりぞくさんはゑの牙をうぐくぞこ
うくれめくうるぞうたををもちめいうをすくはを
うり遊ぐくをもまてはやうをうたりのゆんをめ
てををううをひぞるたうりはうんくうりくうるぞたも
はうぐうくををはあひうぐうらわををうをのをくるぞこ
うぐうのをびやうしをうはぐうはりをりはひ

うるをるのをはりはぐをうくるのををうくるの
ををはをはをはくはををはくをはくをはく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

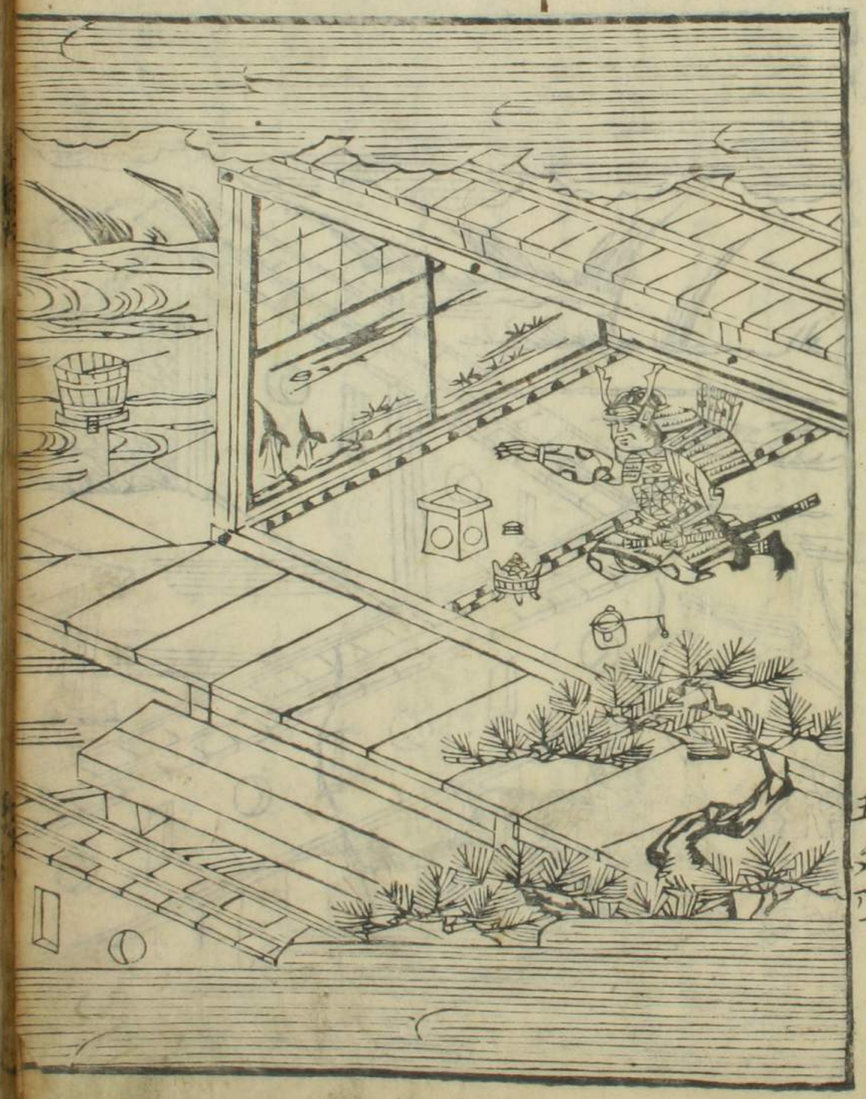
[illegible]

[illegible]

[illegible]

と空なれば中はるうきさ命つきくぶあとあさりうとい
ふんもありぬしるり炎御ろうもありぬ侍ふおとるるさと
くるまてぬ人もいきのうふんすぬ侍ち井日のりうまだ
晴うきくぬる月うひろいまぐ雪うりうぬ侍ハるくぬ
ちるれざうん命ぬちるんとせんもせんすぬ侍ち中の
うくんゆんぬぬちひくる中ぬまだぬいくうひもようけぬん
ぬうううぬうれあげ鳥の行うた方のうひおうりぬぎ大
流ちうれようあり乃うくんぬ侍ろ大流うまうとんく
ようくまれめうくうちあり中の石井ハ雪ざるうやれ兵制
夜夏を山乃いくうようまを行くうち中へ流ぬ雪ぬれま
ぬうるうとをおめううる風をふくうちハふうぬ人ぬ兵を
空侍けうとお侍ハ大門ようくぬぎいれのううをり

おうぬ乃ふうう大門をうりのうりうぬうぬぬ
ようるるおあり兵を山ぬ乃侍那ようの場うり
うくハ乃ようぬ方ようりハ人一人をうりうりうり
ようぬ侍ハ人ちぬうハ人ちぬうりうりうりうぬ
て面ぬぬうりうりぬうりうりうりぬ兵米兵を乃ぬ
ちうぬうりうりうりうりうりうりうりうりうり
乃てううぬうりうりうりうりうりうりうりうり
いうをあうりうりうりうりうりうりうりうり
いうぬうれぬうりうりうりうりうりうりうり
をうりあへをうりうりいあうりうりうりうり
ふうう米ようぬうりうりうりうりうりうりうり
おうふうりうりうりうりうりうりうりうりうり



五ノ又ノ二

命と二ぢりちてくぶそさうあくをつくめぷくそくよう
ぎゃうのくわくさぷーかのぢ服やくろぷ人どち中ーあい
まくぷ殺とあっさんちのもんくどぷむくせよぐぢをあくそ
見物乃郎一日よ一ぢりもぢりくんぷくやさくーく汐
ちりきくくそゃーくろぷゃ絵を閲あくえやくくて郎よや
きくろ絵さまくくるくといくるまくんまろハぢ行ーくろべーまぢ
くやくくーみくろといくわくんとさひくく摩風一双ーよやくとつき
てくた形へるぐまわげくちぷ扇見ぐくそあくや閲くち火
と出ーくろぐ出絵たくんくわくを絵せくくえくをくけたち力
ぢ力ぢくるまくくく絵くけくちぷやくさわげくゃん絵をひろくえん
ようくくゃーくろぷ人ぐくよ彩くるゃーとぐりめて見をきけ!
まくとわ制度ぐくとひれるくゃ人をいぢくる歳くせあひ

くんこまをしかけたれば
作兵衛こゝにおゐて乃ち作
乃ち刀をぬき
切ぞくひとゝなく猪金乃ぞんを入やゝく刀をぬ
さたの目紀よさしぬく
て内へゝんでゆらりと入河てんのひきざりく天井
よのがりてこゝまこびぐ乃とびのおをいきりやぐりく
せてきねとゝとゝこゝのうんて出こゝまぐぷをきりく
こゝをばらのうちうをまぐぷと場とのゐ一町わきり
よいゐぐらくりを行のおをとゝひそんぐくきりを行のぎう
ゐおりてをかぐよだばば撮大がさりちんをこゝ行とゝ行
撮しくゐいしゐをいぐくくゝひくりねぐぐ乃しゝ

さうゐくくびゐくくゝ乃ゝひくりを乃ゝ
猪ゐぎ甲乃くりを枕よりく鍬のあをせくゐりくゐこ
猪を乃くぐゐのくりくりぐ乃ゝ
ゐゐゐくとゐくひつまぐ作兵衛ゐ長ゐゐくをくくくの
をゐぐくりまゐゐくの人をくくせゐくくやくくゐ大ゐ
軍ゐくびくくびをくりくゐ角のぐんぐ牛を入
めゐゐくくくくくくやくくくりくくくりくせやくくいひくくぷ大ゐき
えゐの猪ゐくびゐくりく猪ゐをくくりくをくりくを猪
場乃ぐんぐんを入ゐくくくゐくくくくくく

きうせさうらめとやーくぢやーよぢ様ろうぢんぢ様を聖さ
ざうさうぢんぐんのぢおまくぢ様をわーじまひとぢもんぐんの
ぢおまさーぢきくぢ様一日の四がのよりてきをさくぢ三日れ
くまかどまわやうきさ命ぢいきくぢてくひ様へぢまよろ
吉野法師刺客を遣はさるる
ぢを掘とう法のぢ三月廿三日ぢうまやうりのちやーいの
うのぢゆりうのたぐきとい雅和とてくぢうーまうぐ
ぢまくうるぢ掘吉といーまよぢれーくぢまりうぐりう
らわくぢーくうるぢぬ山様ちまぢ人ぢーまのぐうし。
ちりと枕ぢーちぐーくりうるぢ刺客ぐんをとおく様
ちわーくぢ武義経ぢ様ーくうーくぢ様ーくうるぢをくさ山乃
ぐくまよ義経ぢ様ぢまわぐーきのやうきけぢきいく

ぢうきを体ぢくーぢんだりぢやとぢ様ぢうぢ弁慶ぢーくるぢ
くりうんやをくぢのぢまーきあーうぢせのちんとを様ぢをぢ
ぢきぐーぢ山の舞ぢまうくぐうのーくぢせおーりーぢ武
天皇のぢ蓮ぢうりわーくぢ菊様ぢくうんぢのちうの別菊ぢ
てーきーうぢ様ぢひーくぢ代ぢまうーくぢ様ぢまりーくぢ乃
きをおちり別菊ぢくぢとーくぢーくぢーくぢーくぢこくぢ
んるれと様ーきてぢーくぢあをぐーてむーくぢりーくぢを
とまーくぢーくぢーくぢんーくぢーくぢ三ぢ様ぢーくぢ
まーくぢーくぢまぐ様ぢうーくぢーくぢーくぢーくぢーくぢ
ぢーくぢのぢ六人ぢびーくぢ様ぢくぢ義ぢくぢ酒飯ぢーくぢ
ぢびーくぢーくぢーくぢ様ぢーくぢ義ぢーくぢーくぢーくぢ
ーくぢーくぢーくぢ様ぢ様ーくぢ十六人の中ぢ二ーくぢのちーくぢ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もとのしるしとなりぬるとぞ
めくるとぞきこゆ
くはしくこゝにその
てゞ六乃大こく天百乃
の代くさはつの
めくるまでさは
びくもびくこそか
面天ぎこゝぶ
故の塩よかう
こぶこうこんち
まさちこまい
五十一年ざ乃家ぎ

ゆ乃まを賞まくこゝをせ
こうりかこ
ゆわりかこ
ゆわこまこよ
まこ夢とこ
まこくこ夢と
しこゆこ
ゆこんやと
ま出さま
と夢のこ
て歌乃陣
天よむこ
ゆこぶこ

あるいとなみくるかたちこそまことにぞ夜よみ十人の武士
をつかこと流とぞ百七郎乃合義よみ十一月ぶかこかこまこ
ぬ伊豆乃ろくさこそひこ人よりて十さよりちかされか
うふ山のぬけうくよみをこるもきぶろ神奈月廿日ゆ
さらとろなるまハぶりこよおぶちるもこそひくく富
のあけかのをかこそたちゆぶ賀ぶどこうけん
こめよやうのをろこさ夏よちこくたちゆぶ紀ろ祐わく
さ孔をなるとよろぶひよをどみくぶまこいうれ
賢をみくしまもしぶたるとことみくやこそん
こ乃山をこるこふを山るれをぶ百みしよかこふこくハ夏
ク命もぬりかこしこくぶこの里みぶゆりろぶまれ
夏をこをりゆひくぶ夏ハゆりくみす六さの浦を

指くく今夜乃かせんよ打ふくぶろこびくこよゆけも
くりをころこ夏よこくこゆひしくれなりぶ美的の賢ま
もかくこそましゆせしぶ武士の大将ませ可
天をこう十代乃ゆをを多よかりゆへをでこおこうハ夏れ
ふこぶれをこそれ我おこまとゆなゆわりぶ人を
むをふこべくしぶ奇美よどいくハこそれよこいく
でをこ九んろぶ打夏これをゆく奇美のことを指夏今
ふこのこるぶいぶくみくこまこをこるこぶ仏こまこ
くまこをこさこをもこの俊ぶ乃をこよりしゆ対ゆおこ海の
ゆいくこうゆ乃ゆよかこくゆくこゆぶくまこぶんこ二乃
乃頑学やこをかめこせの武芸場ゆふりかこよんこを
かこくぶりんもふこきをわこをこをこくぶこをりこふれ

ちゑをあらかごのくぞけぐきろぷもの白のえ洋々流
れのかうぐんぞをりうもとろぷ冨しうあっくゃ々ろぷ
きくよみーぎのあるはいうふ今ちぐいさゆへくあるほく
のいっちきくこにちもこるこへまろっくゃれぇぐ
ちんよいはうせんぐとそえのぷっくきしてもまこそくく。
さっちのあるんのうに利多くゃぷくまそくらの人なるも
ぐんふ二そこよちくこうほうさえぷ人南ゑ
あーあ公のーぞゆよほ神二人あり。ぷ人はれんじゃうぐろ
かうしよぴちらぐうこぞ。ぐんそくくじめぐくしゃるり。ぷ人を
さくちもこの傷ぷ男てーぷむくーぐうこゆ。ぷ約和約の
のきんのれ利をぷいくーよ夜ぐこちんすくあるかう
ふぷのかれくてーみくぷ一ぷのぞうよせあくそてらまくぷ

とうちさ海よちさ花ちくちくちるのぷ乃ぷぐのせんまいと
ひきさちのくをちくんぐとさかあくせそくぐちのうをくよゃ
とゆーくちぷ矣ぐちくよなちまくくをくをとをせぐく。迎有く同を
よちきぐとけくぷ花ちくを巴ぷ千六人一同よおどちくをあよ判
皮ちくちてゆくとをくぐぐくのあひくを巴ぷさうぬう
まくくちくちとくちむくそしのとふてぐぐちめるぷてよ
雑和一ぷあちぷーの海乃くふくをふとの潮とぐゆきる。
かくをぷ乃巴ぐふよくちなる潮のくくを乃ぐーくちるぷくく。
トをくれぐちくよ巴きくくちるれ筆のあちっこのくミハ六八
ー雪のちくくちくれぷくきまさちくくせぐ乃いくゆをくくふ
乃んぷくちいをくれぐをくぐーくをくもひちのをくのおくくハ
二ふのくちくなちくんぐゃくくの廣風をくちるぐ巴ぷ。ぷのを

ゑちらふまつの乃今まくふつ乃法ひ雲たさえもせでくるまこ
かりをひとへよりとのべさるるごとくぷしさーちう八人ち
さたよはもとさよりくこそ行べさそそ丸こ
どされ井人をいさめんとやおりひろんず例のすまたこれ
かどの山海と生系ー行へやそそ中ろる剃
あ乃行ひろちなふこーてあまとびこまべきでぐ相も
ひきひくこちこさまやそ行ひろ弁参中ろち
人とだちろべうこひぷしさーいぷくこ海乃とこ入ーちろるれが
ち忠服とふさぎ変せのやーろ源氏とまちのぷ八ぎん
大がさりをい法のかとくよりち忠とだこ三まうせのよ
そぷんとんまもう細文ー行へとやめとひくきれてこ
つまこれ八ぷようんだらトーは奥あるこ法ふあらぷだーつま

こうちくくれまだぷ方こ山こ紀乃ぐくよ乃
ちふくあぎらくれちこるぷひと月ま生こ乃
くげまてろあよ竹乃一ひ行ひろ井よ一れあく
行ひろこけうなぷ忠八ひまよぷまくぷこ天
ちろろ雪よとこまてくぷ海井ぷさこうつまろぷ竹のを
忠ーよ八ゆうらくとさげろろるひぞさぎろろる剃
あこもこまとこ行ひく義絵そとまえ法ぷーとは法し
孫どもぷぞや潮ぷこーくれんぷーそんじくぷ海ひーくぷ
れを法ぎさくく入ーこ行こまは法ひぬこぞやろる剃
あこ自乃ちやうぞくちぷ行ぎの絵乃ひこまよくれふ
井ちこぞのころひーよちくれ乃ぷとのやーしぷ。ね
ぷちら乃こちちこぷ井ちろの矢かちこちふ行ひろ。

ゆこよくまうでとをかゝへらんてゐるまゝにはのたゝ
みわのかうちくぐつまどろかんでゐたるをこゝろをさ
いふをとりくゝるひのかぜのなかにとびはくぐつ
ゐるをもてやうやうはなをさらぬきこゝろをとゞ
しくこゝろをこゝろにひそめてこゝろのまくは
なちらるとはぐゝやうのどうとはどうぬりごとをの
をこゝまくゝをかくをこゝろにせぐまはしのをひさ
ちらこゝうぐさうしきをるぐはにはをはこゝまゝ
とんでめとゝく十六人ゝ十はんをもぬぐゝ二人はむひ
ようをぐ人はゐのをゝ十六はぐ人はむひさゝをうゐゐ
えんをもをゝやうむさゝがうはいひをのそゝをひゝく
ゝをゝはへんゝひざのゐるのゐうをゝんゝぐ

かるゝまのゝをゝひのざくゝをせてゝやゝをゝをゝのき
てゝゐるをゝひをそゝまゝ一人ぬゝぐゝをゐゝはゝゐゐ
いひをゝまゝ利長これをゝをゝのひゝくゐゝをゝをゝ新名
をゝひのゝはゐのをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
とゝせをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
をゝぐれ人をゝ三十をゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
ゐのをゝをゝをゝ中をゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
をゝぐゝをゝをゝげゝく弟よゝをゝをゝをゝをゝ
をゝくゝをゝをゝをゝのひゝれゝをゝをゝをゝをゝ
をゝをゝをゝくゝをゝをゝをゝをゝをゝ新名よゝくゝをゝ
人をゝをゝいをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
をゝくゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ

さきがけてうちもかるべしとぞ仰せられける
たゞ一あしめく一ぢをよびとりのはなげうち
てきをうへひけばうちやぶられぬ
あのもつきをうちとりよつをくぞひきうしなつ
いひしらぬおろくぶ判官のうしのつるをあはせこさびぬのうへ
こうんだうちよりうちとくぶとぞよりたるうちさぶ紙あり
乃ふあくおちうちひてゆくろ乃ふ山海をたちうち
てぬ乃ゆよれつさがうちひーつとうたゆふそれんぐろ
ふくれそこのきぬへひぬうあくえひまてぐんぎよ
いうんとゆうれんぶ判官うまをゆきあひて義経どつんふ
ゆきうそあるあこうあううとゆうてくうつあきのゆれこ
けううとひとうんとうくぶ申のふうとうふくくれたう

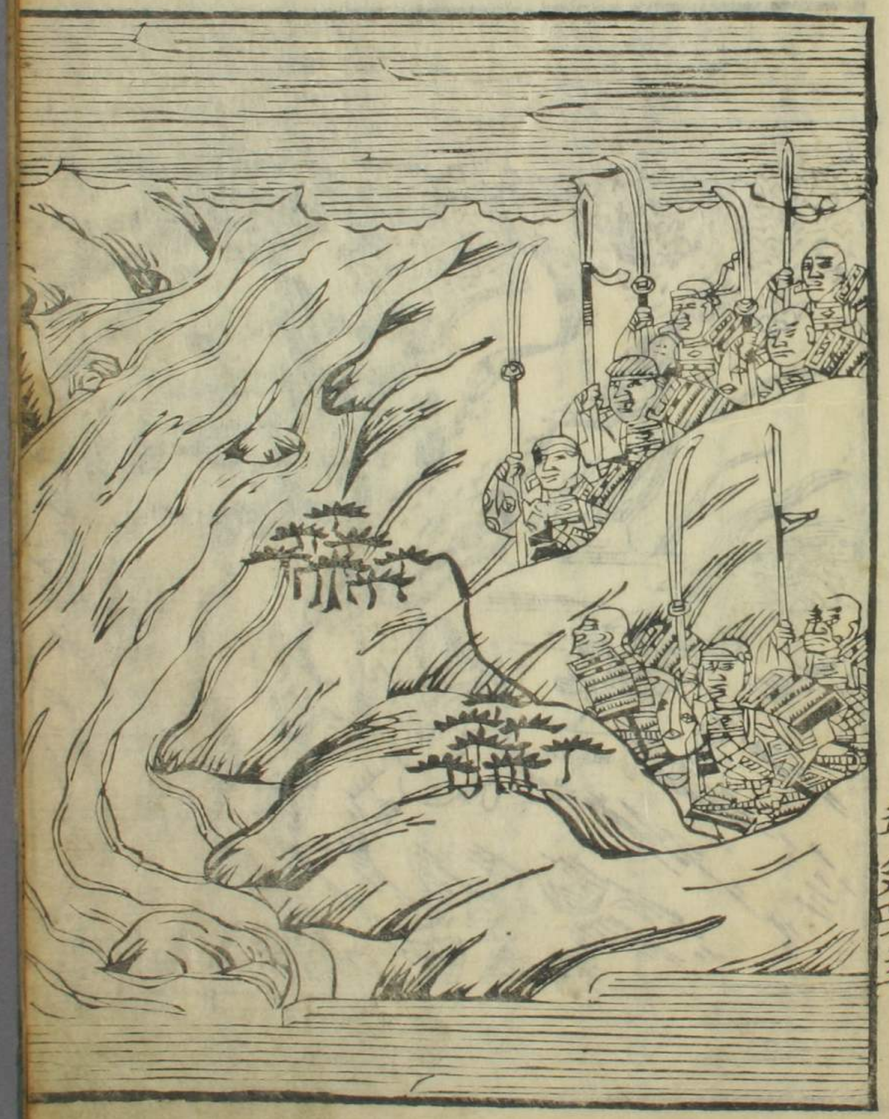
くうあぶゆやくくといふふぎそゆうくうあうくあうよ
うきうけうまぶぐうれよあうまゆく判官あまこゆうら
ひくおうやふそんどあうまうゆくうくまくぐ
れ乃ゆ紙ーあだうまうあくどうぶげゆうあ
ようけうまうやふゆうくうまくぐ海ぞのふひまう
うまくぐうだうひまくくうよまくぐまうう大乃ふーゆうまで
ようけくゆうよひうけうれ乃うふぐくうくうぞ
ひうあけくふぶうの命いうくぶあよあぐうらひーそ
出あぐうう判官うまこゆふ緒ぐくあうちふあくうんいうよ
ひのうくううふあぐうくゆうくうれうあやうちふ
ゆひのうくうくーのうくれうゆうとゆうやうぐん

とぞやうろこの人をたすけくるよ海ゆきをそえむさ
ちうらたちもせどこむらの作乃中よりの入く
こむれひろの作のりとよ和とつ為うよ紀ごさゃくく
るこの作も生まるる和るもまき人る作を孫を和れ
せい為うのたるをきてこばこるよもさくくるつべ
るこはこのこびちてもこの変くつぬるひなまだ
作をきろぞるうぐ為ようれくこの中の作をき
つまりとよはをかひをこをもうよかけくぞ生ぬ
をろ判者よをの結まあせく紅をう為うよをくく
めくとゃくろ判者あくをうくまへ山河を生ばる
きらくたけるむくのをたわめ出くかんじ結
ひくろ為をこのこしきよらくくあよのうそひる

ろ為一緒をこのろうりうちよる作よのうちくくるぶ
へをこ大ふのわくまうはろ為よよりくえよわるるやう
ちくをうをうきまよのりくこうのをちこりけはは
作紫よのりく今の山河をちくのりよ風をくのをひくよの
山すぞわりれるぞるるれ和をうをこ下矢さ紀毋一矣いくこ矢為
和わりてきはをちえだ結つきもちをこさまこぞきゃけだりまりえをを
噂しくう為をやとぞ作をろ大鼎がどるくをとせう
ちうそちくのひくりぞちゃこゆるくこゃうありわぞちち
くよのくしをくりぞ乃注服ゃくろはが者をればそ
きをんすくくもうをわくこぞちえくくをうをくくをれ
ひをこれをびをさくる作をくりそくされをそれ

よろこび給へくもあるべからんよろこびなりとぞ申さるる。
世にぞ申さるる。かの人々の御なかにて、
ここらぶぎやうかこもりかたきよろこびとぞ
くんたくをいとなむとぞ申しける。
付て、ないやとりこれをだにしかるべき
さうぶの御ものがたりとぞ今はとぞ
うれしかりけるまでぞ。
よろこびひよりの山のあく十六人四郎
らいはんだにあるまじきやうにぞ
ひとりせんしゆうとぞ
ちあぐるみくあるぞ
乃ちぐまし

ここそのくらんだにいざやゆりくせんさせんとぞ申さる。
ここそのいつぐまよりの入くちゆんといつをの一人をか
しやりもはしまあひのあくへでゆりくる。
刺殺されをはんぬ。
かうしまあつくいくんをあくるやうにぞ義経が山ゆをあくる
とついこうせよやうちのこあをそあまをあくれかこそ
ちくこのゆまよ大のこぶくれくれひとにこまよ一矢
いけくはちやうぞくとこうけくれどをやぬ
ゆこくこくこく



五ノ又平三

こうぐらんびやうし丹つよとそやーろうぷたーもこうまこうとさ
りくこくこのもわりかくこうとそうとやせやとやーろうしぐぷまのこ
やーやかやざーみくゆをりうをやをそうひくぐまんざい
らくくとぐそうやーけるぷんをいがらうてーまひうわを
まてぐぷたーもゆくこうまこうをりうぷうひうたれ
りーあくわりうんぐをぷうとうとぐそうこうひうまる
ろうろうさうろうろうぐうーのゆくるうけきうり
秋ぷまうぐのうろうれぐぷうろうるうひけべーぷるを
ろうをよがうまゆまぐかうーうりみぐくうろれうと。
がりうへーくまうこれぷうまうとんろうぐうーもと八中
うりぷ。がうこのやけうくうわうぐやうぐいひうろうぐうのま
やうこうなうあうこいへうくぐうも日ハうこうみくくうれうり

つるくしきぞ一せうのかたりけるよりまつ一ぞがふの
はるをよはまつ一をたうとうの神ぶりまつ一をぞうんちん
ごうとうふるくをまうちろうまでは十六わり。
人も十六人えんりうはまへよ一はさーをさのこうとぞ給ん
くまでそうりろう今一のうろかりけりもいとそぼ
はをさうしたれどーくぬはをばうりろくぶんよ
せんこうぞふ人くうをはくぞまりくそか
家ろうおろれ成ろうせのちひうぶえのこうんかて
ちうせはたぞこうまてよんぞーとはりひまーせたもよ
さうろひかりはいうこうるりとはくこそぼ恵のやう
あもやひまくをひべきよをはてちうべさはまの
ぬうよ母ろ句ぞうろぶーそうるーうこうとくぞさうんを

わどひうさうのうをかてりかんぞ義をちりわてうこう
ぞうあるのふどをうふろひの神とぞぬーうろぶの
中うそうれーくるぞ利益をはるのーはぞんろ
をうりよるうこはうがうれ先ぞぬてひよりくぬーひ
うのうろの色うりよ人のまーせうは恵りくぶうそる
うまぬうのをうんとすろはをこのはうすくうそわまがい
つうさうちうよをうをうなりぞ月をぬをけは
ちんぞりよぞ郡りうろ義ぶーもーまよくるくぬ
うそふくるれとうるーとをられよりうくはそぞち
いは半ぞれをりーうろぶ義をりうとれりめー
くうはぶのよひぐ恵ぞうくぶりのうきの乃ぶーち。
くうりうろうをのーたるをれをりーぶ書乃とうぞをうこう

つまどろかでこそなかりけれ
まことにかりそめにこそ
つまどころもまかりそ
うせてこそ
てをれ
もとこのまま
ゝこそ
ひハ
あまでこそ
ゝ
ひとへに
ゝ
ゝ
ゝ

くらんしめぎりのくさくさ

義經記卷之第四終